

祝 辞

日本気象学会北海道支部創立30年記念を祝して

日本雪氷学会北海道支部長 若 濱 五 郎

この度、日本気象学会北海道支部が創立30周年を迎えられたことを雪氷学会北海道支部を代表しまして心からお祝い申し上げます。貴支部の多年に亘る研究活動、一般社会に対する災害防除や知識の普及における御尽力に敬意を表しますと共に、われわれ雪氷学会支部に対しましても陰に陽にお力添え下されたことに深く感謝致す次第であります。



今から30年前といえますと、昭和30年代の初期、戦後の混乱から漸く脱し、気象学会では本道独自の問題を自らの手で取組もうという気運が高まり、支部が結成されたときいております。それがこの30年の間に次々に開花し、幾多の成果をもたらしたことを思うと、先達の識見と御努力に頭が下るのであります。

さて、本道に独自な問題というと、先ず寒冷多雪でありましょう。これは私達雪氷学会の課題であり、気象学と深く関わるところであります。降雪、豪雪、積雪、吹雪、なだれ、着氷雪、融雪、水や地面の凍結、流氷など、そのいずれもが気象学との協力なしには進展し得ない課題です。また近年は気候変動とも関連し、極域での大気・雪氷の相互作用など、雪氷気象学、雪氷気候学の問題が重要となって参りました。今後益々気象学との緊密な協力が重要となると存じますが、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

30年前に比べ、観測手法、データ収集・処理法などが格段に進歩し、それと共に気象の予報・予測に対する社会の要求が本道においても益々増大しているときいております。支部の皆様の御健勝と益々の御発展を祈念し、お祝いの言葉に代えさせていただきます。